

平成19年度病害虫発生予察指導情報
 対象病害虫：ネキリムシ類(カブラヤガ・タマナヤガ)
 対象作物：ダイズ、野菜類

平成19年5月29日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

5月第5半旬現在、カブラヤガのフェロモントラップへの誘殺数が平年より多く、一部の作物では、ネキリムシ類による被害が発生しています。

6月下旬頃までネキリムシ類幼虫による被害が予想されます。

現在栽培中の幼植物、今後は種または定植予定の作物は防除対策を行いましょう。

2 発生状況

(1) 5月第5半旬現在、カブラヤガのフェロモントラップ(東伯郡湯梨浜町)への誘殺数は467頭であり、平年(H13~H18の平均値:190頭)に比べて多い。一方、タマナヤガのフェロモントラップ(東伯郡湯梨浜町)への誘殺数は23頭であり、平年(H14~H18の平均値41頭)より少ない。

(2) 5月中旬現在、一部の作物で被害が認められている。

3 防除上注意すべき事項

(1) 今後、ネキリムシ類幼虫による被害が6月下旬頃まで続くものと予想される。6月までに、は種または定植を行う作物や野菜等では防除を行う。

(2) ネキリムシ類は雑食性で、成虫は広葉雑草等に産卵を行うので、は種前や定植前のほ場では、早めの耕耘作業を行いほ場周辺の草刈りを徹底する。

(3) ネキリムシ類は、日中は土中に潜んでいるが、夜間には地表面に出て作物の地際部を食害する。したがって、本幼虫の発生を確認するには地際部の切断被害に注意する。被害は生育初期に多いので、この時期の被害の発生に注意する。

【ダイズ】

(1) 例年、発生が多いほ場では、病害虫防除指針等を参考にして、は種前~は種時に防除を行う。

(2) は種後、定期的にはほ場を見回り、幼虫による加害の早期発見に努める。

(3) 被害が少ない場合は、被害株の根元を掘り、幼虫の捕殺を行うことも有効である。

(4) 出芽後に被害が多く、追加的に防除を行う場合は、表を参考にして防除を行う。

表 ダイズにおけるネキリムシ類の主な登録農薬(H19.5.28現在)

商品名 (一般名)	使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	イソキサチオンを含む 農薬の総使用回数	ダイアジノンを含む 農薬の総使用回数
ネキリトンK (イソキサチオン粒剤)	3kg/10a	は種時~本 葉2葉期	土壌表面 株元処理	2回以内	2回以内	-
カルモック (イソキサチオン粒剤)	3kg/10a	は種時~本 葉2葉期	土壌表面 株元処理	2回以内	2回以内	-
ダイアジノン粒剤10 (ダイアジノン粒剤)	3kg/10a	収穫30日前 まで	全面散布	5回以内	-	5回以内 (粉剤は1回以内)

【野菜類】

(1) 被害の早期発見に努めるとともに、被害が認められたら被害株の周りを掘り取って幼虫を捕殺する。

(2) ネキリムシ類に登録のある薬剤を使用して防除を行う。